



これは本当に
あった事

あった事は
またいつか
ある事

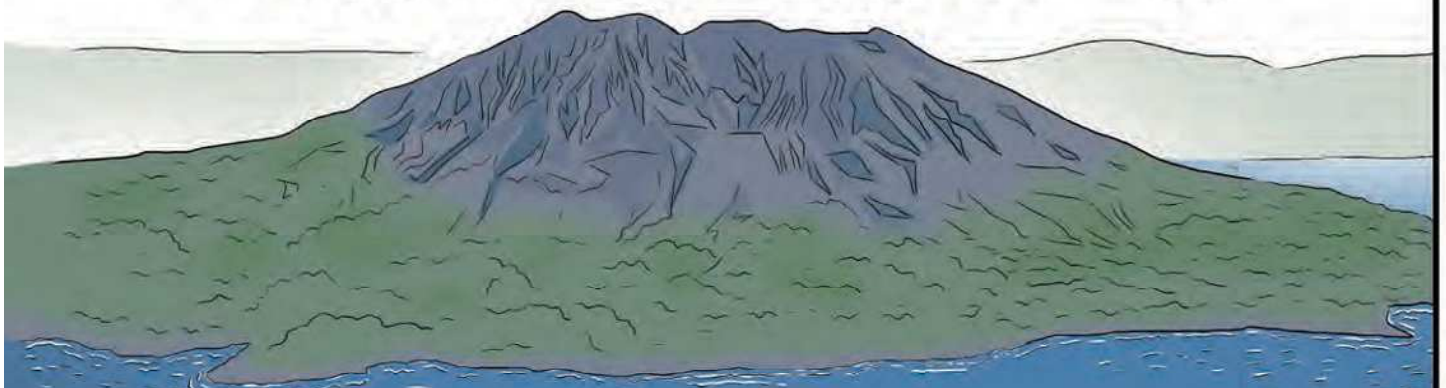


だから
その時の為に

ここに
この体験を
残す

桜島大噴火

～ 1月12日を忘れない!! ～



桜島
鹿児島県
大正3年
ここは

参考文献＝

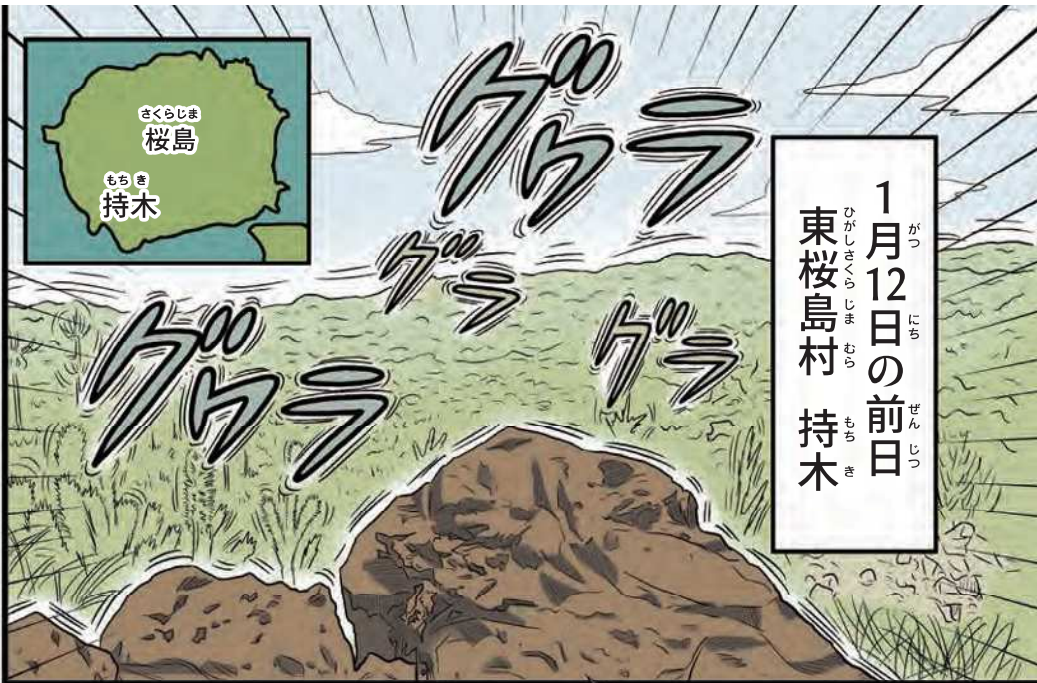
「桜島爆発の日」より
持木集落避難記

漫画＝

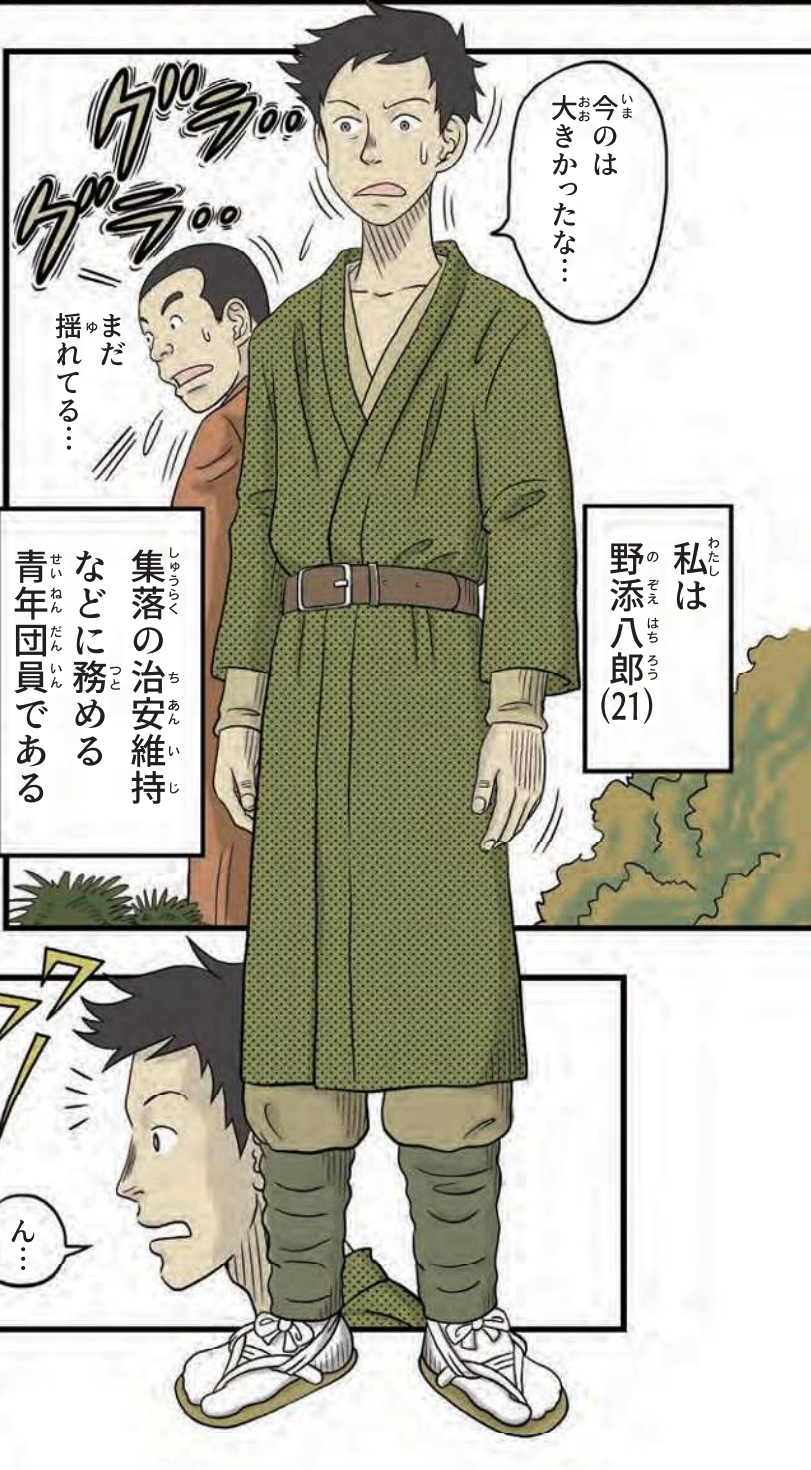
中江孝臣

漫画協力＝

赤塚学園美容・デザイン
専門学校(デザイン科)



1月12日の前日
 ひがしあけくじ 持木
 東桜島村
 持木



今のは
 おお
 大きかったな...

グワラ
 グワラ

まだ
 揺れてる...

私は
 のぞえはちろう
 野添八郎
 (21)

集落の治安維持
 などに務める
 青年団員である



桜島は2、3年前
 からときどき地震
 があつた

地震
 おお
 多すぎ
 ないか!?

最近
 さいきん
 は
 ほとんど
 激しくなつて
 きているな...



集落の井戸の
 水が減少した
 り...
 何かがおこつて
 いるのは確か
 だな...

おい
 みまわ
 煙の
 見回りを
 続けるぞ!!

はい!!



ん...



避難
 ひなん
 せんでも
 よい!!



なぜ村長は島から脱出しようとする村民を制止しようとしたのか?
 桜島では地震が続いたため、川上村長は、何度か鹿児島測候所に問い合わせています。その結果「震源は桜島ではなく、桜島には異変はない」と回答があり、村長はそれを信じて住民の避難を制止しました。

1月12日の朝
午前8時過ぎ

持木浜

みんな
浜に集まった
ぞ!!

これで
避難準備は
整ったな

青年団員
全員集合!!

持木にある船は
全部で7隻だ

大型3隻と
中型と小型が
2隻ずつ

1回で全員を
運ぶのは
無理だな...

とりあえず
沖小島まで
皆を運んで
様子をみよう

持木浜

沖小島

近くの沖小島に
村人を2回に分けて
運ぶ事で話が
まとまった

よしでは
1回目の出発
をするぞ!!

おい!!

桜島を
見ろ!!

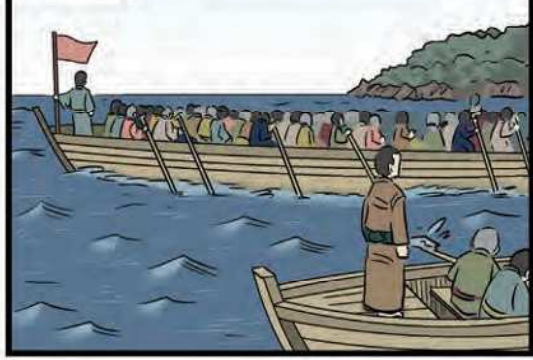
煙がっ!!

わあああつ

おちつけ!!
大丈夫だ!!

白煙はすぐに
おさまったが
地震はひどく
なる一方だった
ので

とにかく私達は
沖小島に向け
漕ぎ出した



沖小島まで
25分

往復して
約1時間は
かかるな



む!!

この軽石と
泡は一体
なんだ?

こんなの
今まで見た
ことないぞ

.....



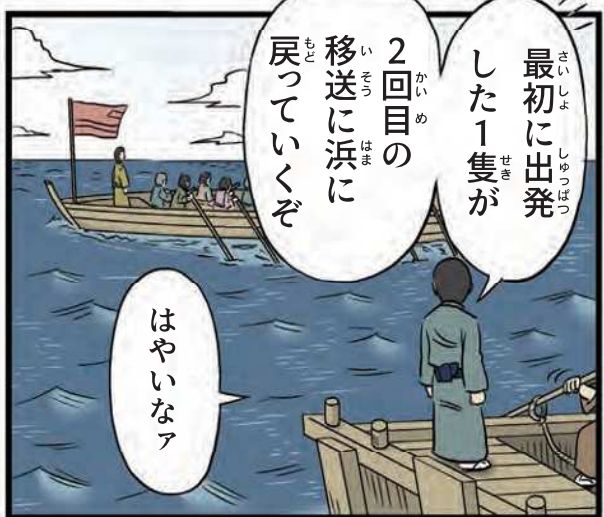
沖小島

もうすぐ
島に
着くぞ!!

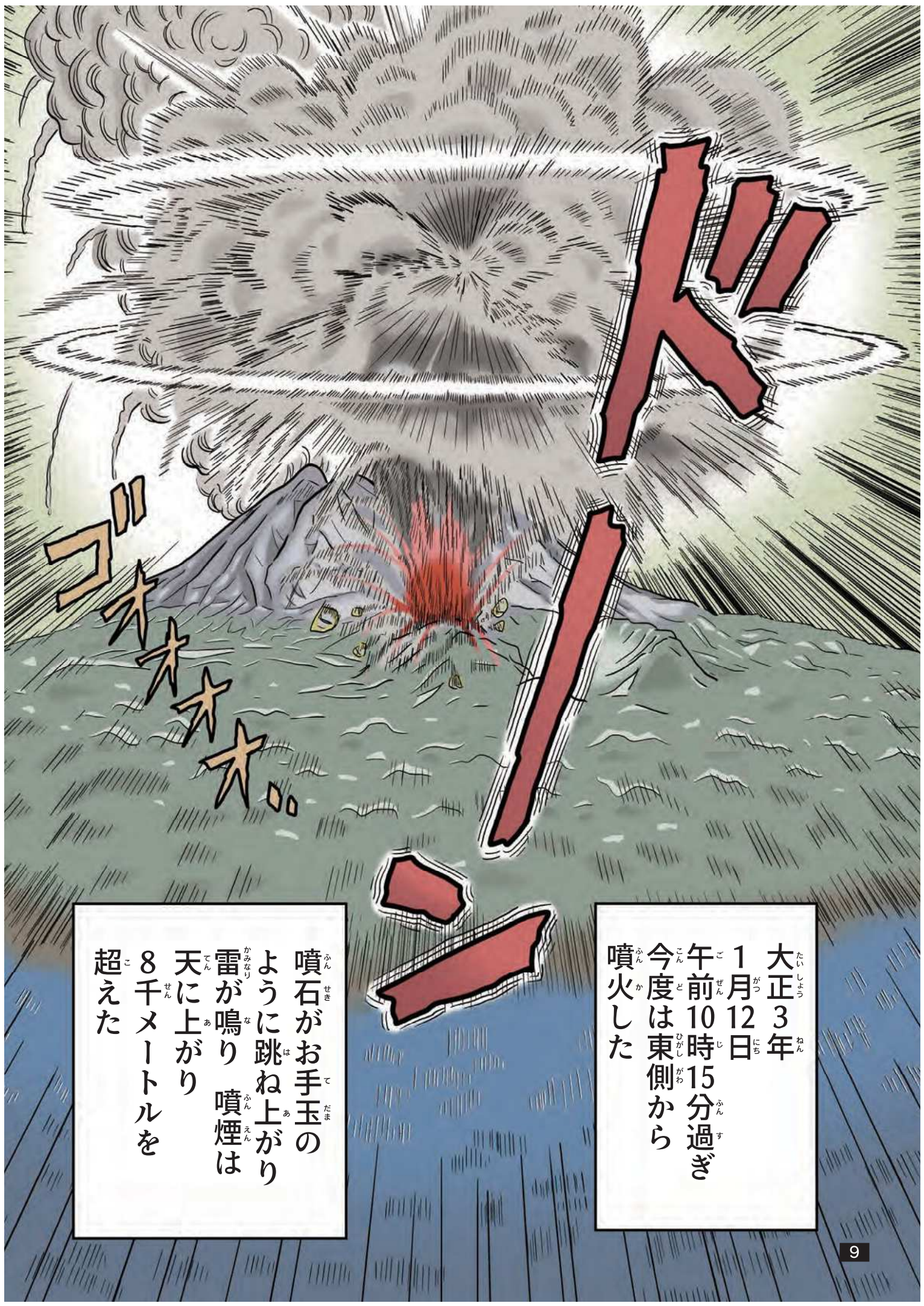
最初に出発
した1隻が

2回目の
移送に浜に
戻っていくぞ

はやいなア







大正三年
一月十二日
午前10時15分過ぎ
今度は東側から
噴火した

噴石がお手玉の
ように跳ね上がり
雷が鳴り 噴煙は
天に上がり
8千メートルを
超えた



必死で
漕げ!!

あの噴煙には
毒ガスが
あるって噂だ!!

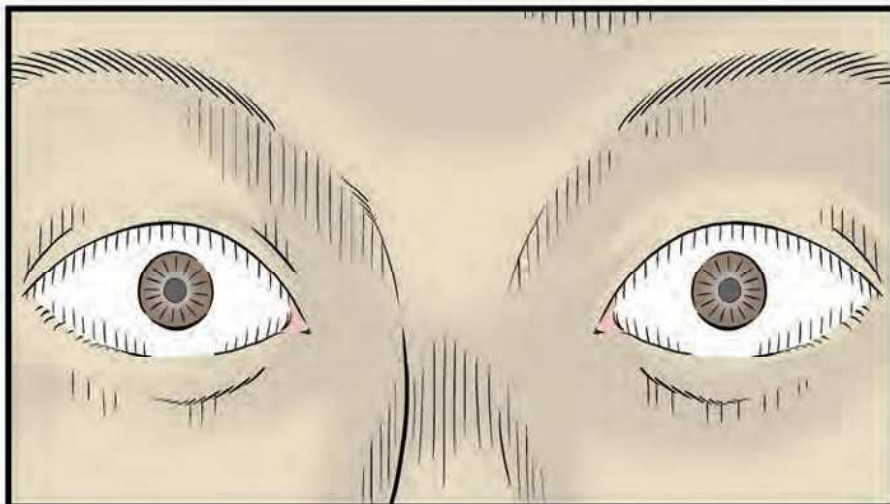
当時の人の
間ではそう
信じられて
いました



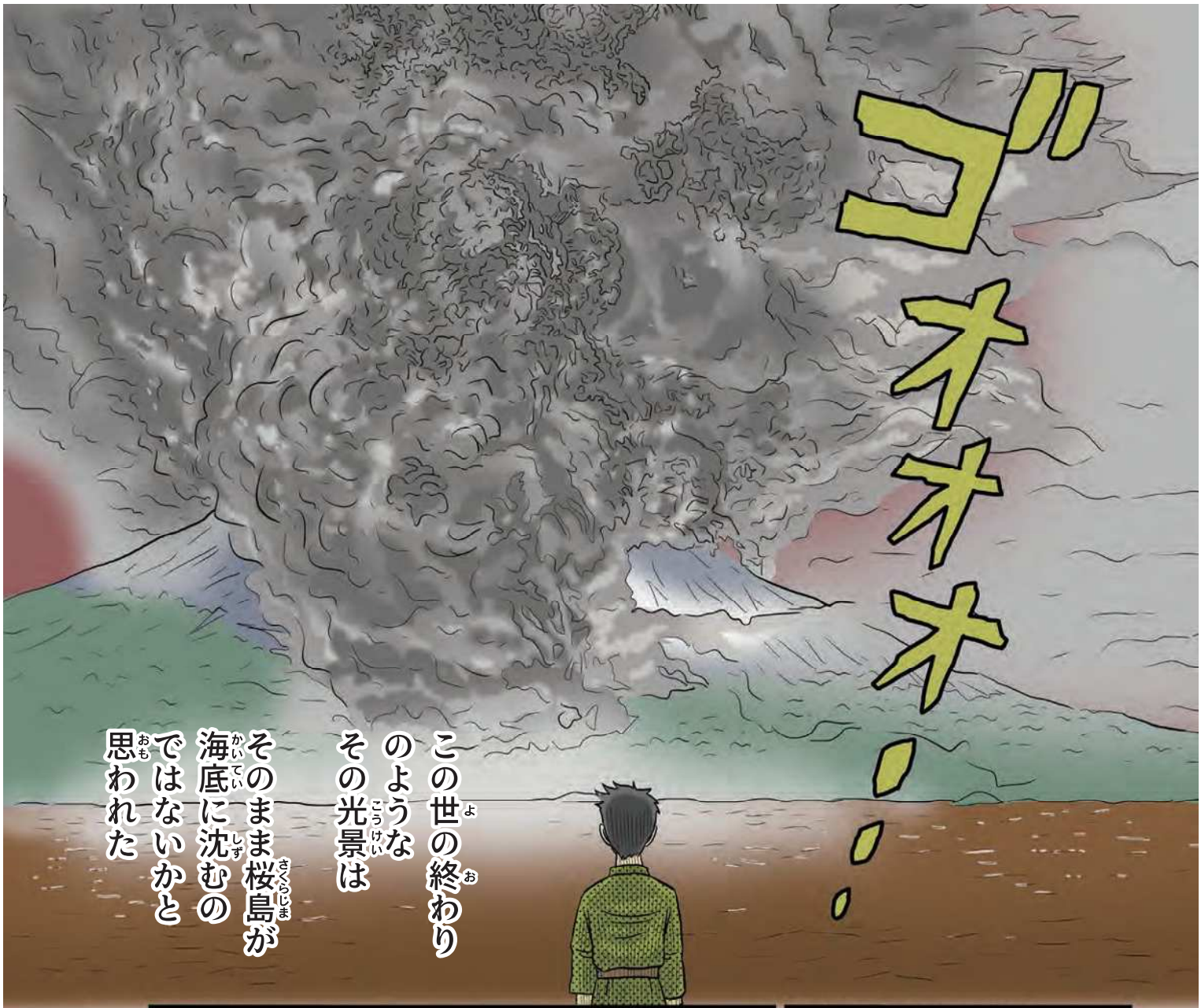
いそげ!!



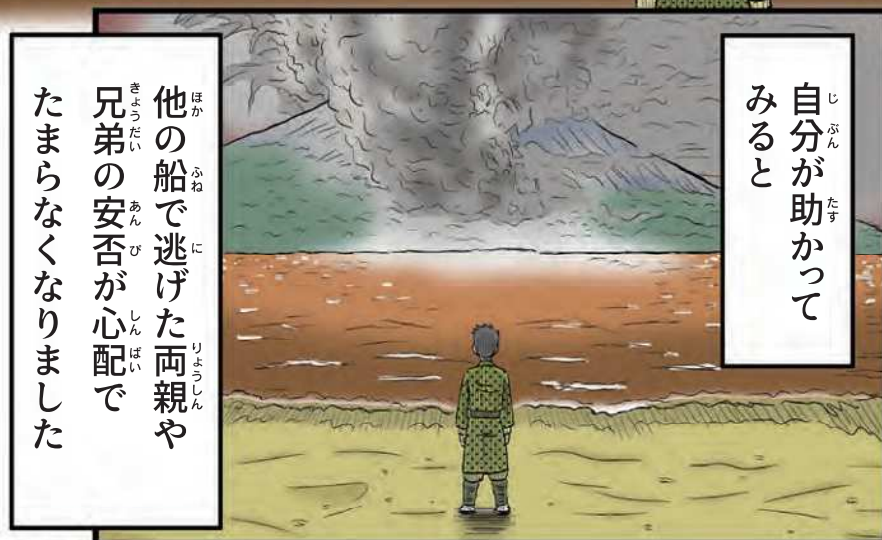
私達の船は
なんとか噴煙から
逃げ お昼頃
鹿児島市の海岸に
着きました



ゴ
オ
オ
オ
オ



この世の終わりのようなその光景はそのまま桜島が海底に沈むのではないかと思われた



自分が助かってみると

他の船で逃げた両親や兄弟の安否が心配でたまらなくなりました



…家族は…みんな無事だろうか…



他の集落の避難の様子は？

瀬戸集落では、前日の夕方までに老人、女性、子供は大隅半島の垂水に避難し、若者も船の上で仮眠するなど、早い段階で避難を始めていたため、全員が無事でした。また、別の集落では、約8割の住民が噴火当日残っており、あわてて避難することとなり、10人が死亡しました。

一方…

二度目の船を信じて持木浜に残された人達だが

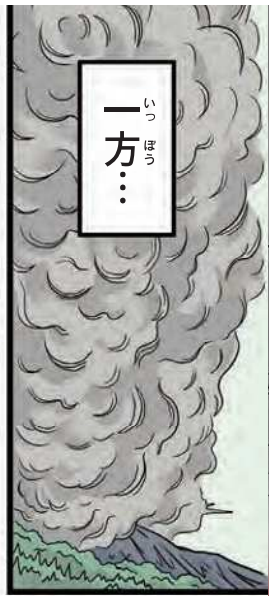
歩ける者は少しでも沖子島に近い燃崎に避難していた

その中に八郎の兄2人がいた

燃崎
沖小島

持木浜

燃崎



木の板につかまって泳げば浮力がつく!!

オイ(俺)は沖小島まで泳ぐ!!

正気か!?

アン(兄さん)

オイ(俺)達も泳ごう!!

次男 八太郎(39)

ウンニヤ…(いや)

兄の八郎四男 吉太郎(30)

オイ(俺)は泳ぎつかん

お前だけでも泳げ!!

アン(兄さん)

いやアン(兄さん)が残るなら

オイ(俺)も一緒に残る!!



この時7人が沖小島を目指して泳ぎ2人が凍死して亡くなっている

避難した家族を思い1月の極寒の海に飛び込まざるをえなかったその無念さが偲ばれる



避難を制止した村長達はどうなったのか?

村長はじめ4人が、極寒の1月の海に入り、泳いで避難しようとしました。村長と書記の1人は救助されましたが、収入役ともう1人の書記は亡くなりました。



そのほか
避難途中に疲れて
岩陰で休んでいた
母子が



桜島島の死者の
ほとんどが海に飛び
込んだの溺死であった
あとは逃げ遅れ 噴石
などの噴出物による
死亡と推定される



数日後救助されるが
子供は既になくなつて
おり
母親もその後
衰弱死したという
話も残っている



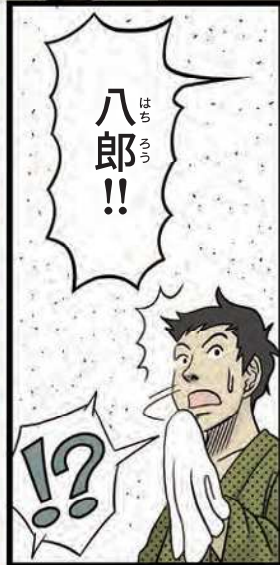
目覚めた時には
大量の灰に埋まり
身動きがとれなく
なっていた



6 噴火から
時間後



七蔵アン(兄)
さん!!



ハ郎!!



他の船で
逃げた家族も

市内に
避難してきて
いるはずだ



みんな
無事でいて
くれ!!



肉親と無事の再会を
喜び合い 兄達から
他の家族も救助船に
救出され無事な事を
聞き安心しました



本当に
無事で
良かった!!

良かった!!



武の停車場
(今の鹿児島中央駅)



よし!!
そうと
決まれば

駅に向か
おう!!

いくつか
私に知り合いの
アテがあるから
訪ねてみましょう



でも
どこに...!?

噴火も強くなって
とても市内には
おれないから
郊外へ逃げよう



このままだと
夜をむかえて
しまう 歩く
しかないな!!

すごい混雑だ...
昼に切符を買った
人がまだ乗れて
いないらしい...



ゲラッ!! ゲラッ!! ゲラッ!!
ゴゴゴゴ...

噴火当日
午後6時29分
マグニチュード7.1の
地震が鹿児島湾内で
発生した

!!

ガラ
ガラ



さっきの地震で
津波がくるぞーっ!!

津波だあ!!



みんな
離れるなよ!!
オウ!!
八郎急ぐぞ!!



皆 郊外へ避難したため
 鹿兒島市内から市民の
 姿が消えたといわれている



電灯が消え電話も不通になり
 「津波」や「毒ガス」などの
 噂が広がりパニックとなった

津波
 だア!!
 毒ガスも
 来るぞ!!



鹿兒島市
 北西部
 小山田



この震度6の地震で
 家屋の倒壊や崖崩れが
 おき 更に混乱は増し

29人の方が亡くなり
 100人を超える人々が
 負傷した



すぎる思いで
 小山田にある叔母の
 知人の家を訪ねた



八郎達は
 噴煙・地震・混乱
 からやっと逃れ

この時ばかりは
人の親切の有難
さが身に染みて
わかりました

こうして
八郎達は
事なきを得た



いただき
ます…



こんな
遠くまで…
寒かった
でしょう!!

それは
皆さん大変
でしたねえ!!



今すぐ
ご飯の仕度
しますから!!

お構い
なく…

ささっ!!
あがつて
下さい!!



その後も桜島の
噴火活動は

一年以上も
断続的に続いた



大正噴火はわが国
20世紀最大規模の
噴火であった

噴出物の総量は
雲仙普賢岳噴火
(1990年)の約10倍
富士山宝永噴火
(1707年)を上回る



やはり桜島は彼らに
とって かけがえのない
故郷なのだ



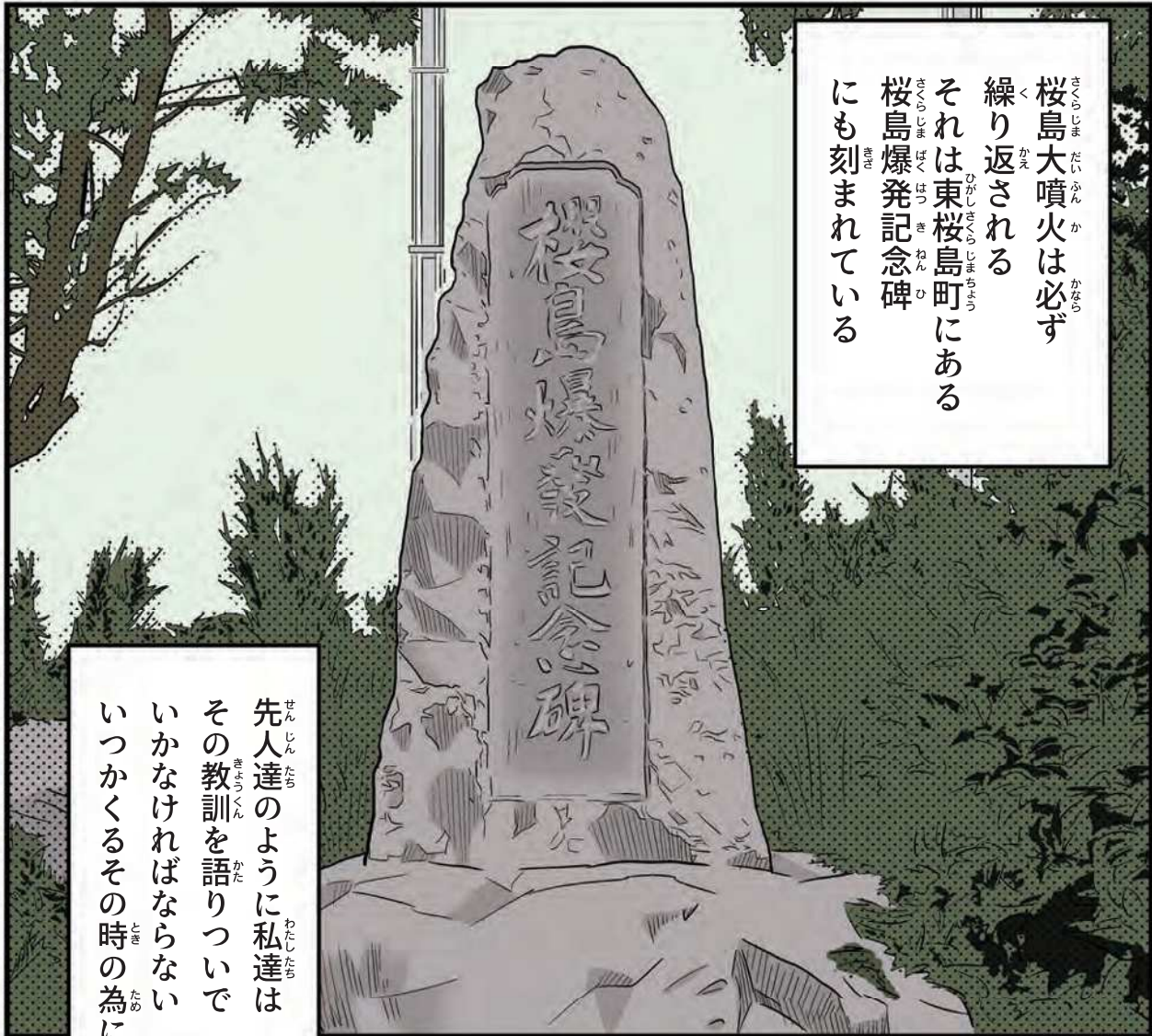
それでも八郎達は
噴火から6ヶ月後
また桜島の住家に
帰っていった



わたしたち
私達の生活は
桜島と共にある

だからこそ
私達は
大正噴火
の被害を忘れて
はならない

ゴオオオ



桜島大噴火は必ず
繰り返される
それは東桜島町にある
桜島爆発記念碑
にも刻まれている

先人達のように私達は
その教訓を語りついで
いかなければならない
いつかくるその時の為に

教訓

**悲劇を繰り返さないよう
避難の用意と心構えを**

桜島の各集落には大正噴火の135年前の安永噴火の教訓が語りつがれており、大正噴火では、緊迫した事態を察知した多くの住民が避難行動を取ったため、大噴火でありながらも犠牲者が少なかったのです。我々も、大正噴火の教訓を生かすために「大正噴火で何が起きたのか」ということを「知る」こと、そして「教訓を次の世代に伝えていく」ことを考えなければなりません。